ルネ・ラリック 「泉の精ガラテ」1924年デザイン 個人蔵

光の装飾



アール・デコのガラス工芸アール・ヌーヴォーと



エミール・ガレ 「カモメ文ランプ」1910年頃 個人蔵

 $2018 \ 9.8 \ |\pm| \cdot 10.28 \ |\pm|$

会場◎岡崎市旧本多忠次邸

開館時間◎午前9時~午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休 館 日 ◎月曜日(ただし9月17日、24日、10月8日は開館)

及び 9月18日(火)、25日(火)、10月9日(火)

入館料◎一般 300円/小中学生 150円 ※岡崎市内在住・在学の小中学生、各種障がい者手帳をお持ちの方とその介助者(1名)は無料

主催◎岡崎市 企画協力◎ギャルリーオルフェ

写真/内藤貞保(bon photo service)

光の装飾



アール・ヌーヴォーと アール・デコのガラス工芸

「新しい芸術」を意味し、曲線、植物、裸婦像など有機的な形が印象的なアール・ヌーヴォー様式と1925年パリのデザイン博覧会を語源とし、幾何学的な模様が特徴のひとつであるアール・デコ様式。19世紀末から20世紀前半にかけて、第一次世界大戦をはさんで生まれた2つの様式は、当時各地で頻繁に行われた博覧会の影響もあって世界に広まり、建造物や工芸品、服飾、広告とあらゆる分野で流行を作りました。

今回の展示では、アール・ヌーヴォーからアール・デコまで、エミール・ガレ(1846-1904)やルネ・ラリック(1860-1945)などそれぞれの様式を牽引した工芸家たちによるガラス作品

を中心に紹介します。日本美術の影響や、それらの表現を可能にするための加工技術への挑戦、各博覧会の果たした役割など作品の生まれた時代背景と共に、昭和の洋館を彩る光の装飾の数々をお楽しみください。

ギャラリーツアー



ギャルリーオルフェスタッフが展示作品をわかりやすく解説します。

日時/2018年 9月8日(土)11時~、14時~ 10月7日(日)11時~、14時~

各回とも ●参加無料(要入館料) ●事前申込不要 ※混雑した場合は参加を制限させていただく場合があります。



エミール・ガレ 「ダリア文花瓶」1890年頃 個人蔵



エミール・ガレ 「パグ/ネコ置物」1880年頃 個人蔵



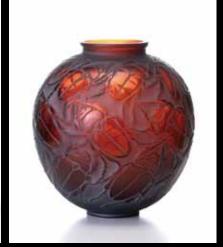
エミール・ガレ 「藤文花瓶」1900年頃 個人蔵



ドーム兄弟 「冬景色文ランプ」1910年頃 個人蔵



ルネ・ラリック 「置時計 – 昼と夜 | 1926年デザイン ギャルリーオルフェ蔵



ルネ・ラリック 「スカラベ花瓶」1923年デザイン 個人蔵



岡崎市旧本多忠次邸

OKAZAKI CITY FORMER RESIDENCE OF HONDA TADATSUGU

徳川四天王のひとり本多忠勝(1548-1610)を始祖とする旧岡崎藩主本多家の子孫、本多忠次(1896-1999)が昭和7年(1932)、東京世田谷に自邸として建てた木造2階建の洋館です。平成24年(2012)に岡崎市に移築復原され、平成26年(2014)10月には国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

【開館時間】午前9時から午後5時

(入館は午後4時30分まで)

【休館日】月曜日(月曜日が休日の場合は翌日以降 の最初の休日でない日)、1月1日~3日、 12月29日~31日、展示替期間

